

平成28年6月

大野市教育委員会臨時会

会議録

日 時：平成28年6月16日（木）午後3時00分～4時32分

場 所：大野市役所 談話室

平成28年6月16日

大野市教育委員会6月臨時会

【大野市教育理念の唱和】

1. 開 会

会議録署名人 山川委員 妙願委員

2 付議事項

1) 大野市学校再編計画（案）について

3 その他

1) 臨時教育委員会の開催スケジュールについて

4. 閉 会

<出席者>

	委員長	洞 口 幸 夫
	職務代理者	清 水 美 那 子
	委 員	山 川 秀
	委 員	妙 願 貴 子
	委 員	松 田 公 二
事務局（説明者）	教育長（再掲）	松 田 公 二
	事務局長	小川 市右エ門
	教育総務課長	木戸口 正 和
	学校教育審議監	道 鎮 栄 一
（書 記）	教育総務課課長補佐	山 田 靖 子

【大野市教育理念の唱和】

【開会・点呼】

【委員長】定刻になりましたので、ただ今から、臨時教育委員会を始めさせていただきます。

4月の定例教育委員会で、松田教育長さんから、小中学校再編計画についての臨時教育委員会の開催の要望がございましたので、そのご案内をいたしましたところ、皆さん方には、ご多用の中ご出席いただき、誠に有難うございます。

ご承知のとおり、これからの臨時会の課題は、小中学校再編計画案づくりという背負い切れない大荷物です。私達全員が先の答申を尊重しながら、英知を結集して、この平成の大仕事というべく課題に取り組んでまいりたいと思います。

なお、臨時会のご案内の中にもありましたように、今月と来月にかけて数回予定されています。時間も限られているようなので、なるべく事務局の意向に添いたしたいと思います。都合の悪い日がございましたら、後ほど申し出ていただきたいと思います。

それでは、よろしく申し上げます。

【会議録署名人】

【委員長】本日の会議録署名人は、山川委員さん、妙願委員さんのお二人にお願いすることにします。

【議 事】

【委員長】早速ですが、2番目の付議事項に入ります。

大野市小中学校再編計画(案)について、事務局の説明をお願いします。

【局長】資料1大野市小中学校再編計画(案)の基本事項についてご覧下さい。

1月28日に学校教育審議会より最終答申をいただき、本日まで20回余りの課内ミーティングを行い、案の作成を進めています。この中で、「再編計画(案)の基本事項」について、委員の皆様のご意見をいただくため、本日、説明させていただきます。

なお、会議は非公開としたいので、よろしく申し上げます。

——<資料1 説明>——

【委員長】ただいま説明いただきました。このような経緯も含めて質問をお願いします。

【清水委員】市民の中では、中学校は、3年後に2校になるという素案が、決定のように言われています。今の説明では、平成35年までは現状のままということですか。

【局長】はい。和泉地区のことを考えると、中部縦貫自動車道の開通を待って、一度に再編したほうが良いと考えました。

【妙願委員】高校でも生徒数が減り、大野高校では学年5クラス、1年生は4クラスまで減ってしまいました。

【山川委員】平成38年というと10年後ですか。小学校の複式化がどんどん進みますね。

【妙願委員】小学校は2校に再編して子ども達が切磋琢磨していくのは分かりますが、中学校は1校となり、市内2校での競い合いという部分はなくなります。そこはどう考えたらいいでしょう。

【学校教育審議監】切磋琢磨することが必要という意見が出ましたが、大野市内でどうということではなく、奥越圏域の学校の中での切磋琢磨の仕方もあります。

【委員長】福井県全体の児童生徒数の減少のデータは出ているのですか。

【学校教育審議監】県内の学校の統廃合の現状は、あわら市は小学校の複式学級の解消のため再編を進めています。美浜町は、昨年度7小学校を3小学校に統合しました。敦賀市は校舎の老朽化に併せて学校の統合と、小中一貫教育を検討しています。小浜市では小学校を4校に編成するという事で、既に一段階の再編は済んで、計画は動き出しています。

【委員長】県内全域で、そういった動きがあるということですね。

【教育長】小学校2校、中学校2校として併設型の小中一貫教育も魅力的ですが、これからの生徒数の減少も考えますと再編のメリットが消え、もう一度再編しなければならない事態も予測されます。

小学校2校、中学校1校に再編されれば、児童生徒、教職員の交流も、今以上にやりやすくなります。

また、現実的には校舎の老朽化が進みすぎており長寿命化の対象とならないことなどから、新築という考えに及びました。

新築して、夢のある学校づくりをしようということになりました。

4月に発生した熊本地震の被害状況からも、新築にすべきということになりました。

【妙願委員】新築というのは、ありがたいことです。希望があり、子ども達にとっても嬉しいことだと思います。

【教育長】小学校も早くしたいと考えました。

素案では、小学校は複式学級の解消を第一に考え、二段階で再編を行うこととして

いましたが、二度再編をするということは、やっとなれた頃に、また再編ということになります。

その際、「一度に再編すれば」という意見もありました。二段階の再編はそこに住む子ども達、地域住民にとっては、精神的な負担になります。

それらのことから、大野市の子どもが一斉に新築の学校に入れば、夢のある再編になるのではないかと考えました。

【妙願委員】「地域性に配慮した校区編成」というのは、どういうことですか。

【局長】現在、小山地区や乾側地区、下庄地区など校区が地区を分断しているところがあります。再編により地区を割らないような校区の見直しをしたいということです。

【妙願委員】「特色ある教育をできる限り、引き継ぐ」というのは、具体的にはどういうことですか。

【教育長】現在、各学校でいろんな地域活動を行っています。しかし、小規模校では、多くの学びができにくいということがありました。再編後は、1年生は下庄地区を学び、2年生は乾側地区を学び、3年生は大野地区を学ぶというように、全市的な地区との関わりの中で体験したり、伝統芸能などに触れたり、総合的な学習を展開していくということです。

また、敬老会、地区体育大会なども部活動を休んで参加できる体制づくりを工夫していこう、薄れていく地域性を出来るだけ強めていこうという思いです。

【山川委員】蕨生の里神楽なども子どもが少なくなって、継承も難しいというのが現状のようです。

【教育長】学校も、公民館を核としながら地域活動をやらせていただきたい。

【委員長】地域の捉え方を、大きくしていくということですね。

【妙願委員】みんなが大野市のことを知っていくきっかけになりますね。

【清水委員】細かく、深く知っていくことはできないかもしれませんね。

この小学校2校案でいくと、小学校の校区はどこで分かれるのですか。

【局長】人数のバランスを考えて、また、校地の場所も考えて、ということになります。

600人規模の小学校になりますと校地は、相当の面積を必要とします。既存の中学校の跡地を活用することも検討中です。（開成、陽明が約3ha、上庄、尚徳は4haを超える広さです。）

実際に、陽明や開成の跡地では、余裕のないつくりになる可能性があります。例えば丸岡南中学校は、400人規模、1学年5学級で4haの校地となっています。

今、600人規模、複数のスクールバスの発着場を考えると5haの用地が必要でないかと考えています。

【教育長】場所は、平成29年度の基本構想策定の中で検討していくこととなります。

【委員長】スクールバスの台数は、どのくらいを想定しているのですか。

- 【局長】概算ですが、上庄方面で3～4台、阪谷方面で3～4台、小山、乾側、和泉方面なども複数台必要で、総数ではかなりの台数になります。
- 【教育長】中学校、小学校、同時に、相当数のスクールバスが走ることになります。また、バス停には屋根、スペースも必要と考えます。
- 【山川委員】排雪場所も考えないといけませんね。
- 【教育長】グラウンドに雪を入れられる工夫もしなければいけません。
- 【委員長】小学校2校、中学校1校にまとめるという提案について、委員の皆さんはどうお考えですか。納得できる説明ではありましたが、7年先は、遠い気がします。
- 【妙願委員】文化会館の改修と時期が近くなりますが、市の経費は大丈夫ですか。
- 【局長】文化会館については、建て替えという方向性が出て、基本構想を策定する予定です。
- 【委員長】文化会館の改修のほうが先ですか。
- 【教育長】耐震診断ではE判定でしたので、そのように考えています。。
- 【清水委員】「箱物ばかり建てて大丈夫なのか」と巷でよく耳にします。学校は別ですかね。
- 【教育長】学校は100年に一度の資本投資です。大野市を支える投資です。いい学びを、いい子どもを育てていきたいと考えています。
- 【山川委員】学校は、毎日使うものです。
- 【清水委員】建築費の国からの補助は出るのでしょうか。
- 【局長】内容によって補助率が違います。1/2か1/3の補助率だと思いますが、対象面積が絞られて、実際には整備費全体の20%くらいになることもあります。
- 【教育総務課長】補助金も重要ですが、普通交付税で返ってくるような有利な起債を活用することも大事です。
- 【妙願委員】地震に強い、岩盤の固いところに建ててもらわないといけませんね。
- 【委員長】基金を積んで財源とするのですか。
- 【局長】建設費が大きくなるため、基金を計画的に積み立てていかないといけないと思っています。
- 【委員長】この計画案でいいですか。
- 【教育長】計画案の策定にあたっては、絶えず、子どものためだという考えの下に検討させていただきました。
- 【委員長】地区へ説明に行くときには、教育ビジョンが重要になります。
- 【教育長】次回の定例会で教育ビジョンを示させていただきます。本日説明した部分を踏まえて、提案させていただいています。
- 【清水委員】2段階で再編を行うよりもこの案のように、みんな一緒に再編したほうが問題ないのかなと思いました。

【委員長】開成中学校も、陽明中学校も動く、みんな動くというのはいいのかもしれませんが。

【教育長】学校を統合するのではなく、校名、校歌、校旗を新しく、作成します。校名をつけるには、時間がかかります。校舎の建設と並行して進めないといけません。校歌も吟味して、時間をかける必要があります。

【清水委員】寂しいことですが、中学校は2校にしても、少子化が進み、また、問題が出てくるかもしれません。

【委員長】1頁目の「基本となる考え方」の5番目、「(仮称)再編推進協議会」が気になります。名称について、いろいろ議論となっているようですが、あっさり「再編協議会」としてはどうでしょう。

【局長】「再編検討協議会」と「再編推進協議会」については、3月議会、6月議会においても一般質問がありました。

【委員長】再編の中身を検討するのだから、「再編協議会」でいいと思いますが。いかがですか。

【教育長】目的は同じなので、分かり易いほうがいいということで、議会で、「再編推進協議会」にしたいと考えていると答弁しているのです、この名称とさせていただきたいと思います。

【委員長】今回の小学校2校、中学校1校の案になれば、意識が変わる気がします。

【教育長】新築する場所にもよると思います。仮設の校舎を建てることはできるだけ避けたい。中学校生活3年間のうちほとんどが仮設校舎で生活するという生徒も出てきます。

【清水委員】校地の選定についても、有終南小学校が現在地の春日に落ち着くまでも大変でした。場所の選定には、時間がかかるでしょうね。

【教育長】スクールバスが安全に回れる広さがないといけません。

【山川委員】小学校の再編は、平成38年ですが、それまで、阪谷小学校や和泉小学校は維持できるのですか。

【教育長】例えば、和泉小学校が、「再編時期より先に再編させて欲しい」と言ってきたら、受け入れるつもりです。

ただし、「一人が先に行って、他の児童が残る」ということはできません。あくまでも「全員が」という話です。

複式学級を保有している学校の割合は、県内で大野市が最も高くなっています。

【委員長】そのほかに、何かありませんか。

【学校教育審議監】教育委員と語る会を7月13日、水曜日、午後2時30分から開催します。全体会では、委員の皆さんにそれぞれ10分ずつ一言お話をいただきたいと思います。テーマは、何でも構いません。

【局長】 25日、土曜日には、青少年健全育成推進大会が、26日の日曜日には市総体が開催されますので、ご出席方よろしくお願ひします。

【委員長】 そのほかに、何かありませんか。

なければ、以上で、臨時教育委員会を終了します。どうもご苦勞様でした。

午後4時32分終了

平成28年7月28日

(山川委員)

(妙願委員)